Alkano, BayoLinkS のご導入・バージョンアップを
ご検討中のお客様へ

プロダクトのご導入・バージョンアップ前にご確認いただきたいこと

本文書でのご説明対象となるプロダクトのバージョン

	バージョン	リリース日
MSIP	1.10.1	2025年6月26日
Alkano	1.4.1	
BayoLinkS	9.3.1	
TextExtension	1.2.1	

株式会社NTTデータ数理システム
2025 年 6 月 26 日 版

© 2025 NTT DATA Mathematical Systems Inc.

はじめに

このたびは、Alkano および BayoLinkS の導入およびバージョンアップをご検討いただきまして、まことにありがとうございます。

Alkano および BayoLinkS は、MSIP とよばれる基盤ソフトウェア上で動作するプロダクトです。したがって、これらのプロダクトをご導入・バージョンアップしていただくためには、MSIP をご導入・バージョンアップしていただく必要がございます。

※Alkano および BayoLinkS をご購入いただいたお客様は、MSIP を利用することができます。 MSIP のインストーラーから、MSIP とあわせて Alkano および BayoLinkS がご導入・バージョンアップしていただけます。

本文書では、MSIP のご導入・バージョンアップにあたり、事前にご確認いただきたい事項について説明いたします。

- **MSIP 1.10.1 の動作環境**
- **MSIP 1.10.1 と連携できるデータベース**
- **MSIP 1.10.1 へのバージョンアップ前にご確認いただきたいこと**
- **MSIP 1.10.1 の当社他プロダクトとの共存につきまして**
- **MSIP 1.10.1 の依存ソフトウェア**
- **MSIP 1.10.1 のインストール時の環境チェックにつきまして**

MSIP 1.10.1 の動作要件

MSIP 1.10.1 をご利用いただくにあたり、以下の動作要件を満たしていることが必要です。

この要件は MSIP 1.10.1 が動作するための最低限の要件です。MSIP 1.10.1 上で行う処理の内容や扱うデータの大きさによっては、より高いスペックの環境をご用意いただく必要がございます。

MSIP バージョン 1.10.1 の動作要件

CPU	**2GHz 以上、4コア以上 (8コア以上推奨)**
メモリ	**利用可能量 4GB 以上** (12GB以上推奨) • **MSIP のインストールおよび起動の直前に、メモリに 4 GB 以上の空きがある（利用可能である）ことが必要です。**メモリ利用可能量の確認方法は、p.10 に記載しています。**特に、メモリ搭載量が 8 GBのコンピュータをご利用の方は、この要件を満たしていない可能性がございます**ので、必ず p.10 の方法で利用可能量をご確認ください。 • 仮想マシンをご利用の場合は、メモリを静的に割り当てて、要件に記載した以上のメモリが利用可能になるように設定をお願いいたします。
ストレージ	**空き容量 50GB 以上** (処理データ量によって異なります)
OS	Microsoft Windows Server 2016（UTF-8のデータインポートのみ非対応、.NET Framework 4.7.2 以上） Microsoft Windows Server 2019 ：バージョン1809以降 Microsoft Windows Server 2022 Microsoft Windows 10（64 bit版）：バージョン20H2以降 Microsoft Windows 11（64 bit版）：バージョン21H2以降 ※ 日本語OSに限ります。日本語OS以外をご利用の場合は、当社までお問い合わせください。 ※ ARM は対応していません。
ブラウザー	Google Chrome：最新バージョン、 Microsoft Edge：最新バージョン
ネットワーク	ライセンス認証のため、インストール時およびインストール後定期的にインターネットへアクセスします。必要に応じてファイアウォールやセキュリティソフトウェアの設定を変更し、インストール先マシンから以下のURLにアクセスできるようにしてください。 https://nttdatamathematical.prod.sentinelcloud.com https://nttdatamathematical-prod.esd.sentinelcloud.com （※後者の URL にブラウザからアクセスすると、「MissingKey」という内容のエラー画面に遷移する場合がありますが、正常にインターネットアクセスができている状態であれば問題ございません。） インターネットへアクセスできない環境の場合やご不明点がある場合は、当社までお問い合わせください。

MSIP のインストール時にこの要件が満たされていることが必要です。
メモリ利用可能量の確認方法は、p.10 をご確認ください。

MSIP 1.10.1 と連携できるデータベース

MSIP と連携して使用できるデータベースは以下の通りです。

MSIP バージョン 1.10.1 と連携できるデータベース
（当社では、データベースとODBCドライバの以下のバージョンで動作確認しております。これら以外のバージョンを利用される場合は、必ず事前に動作確認を実施してください）

連携
データベース
	• PostgreSQL 17.0
	• Oracle Database 21c Express Edition (XE)
	• ODBC
	  • MariaDB
	  DBMS: version 10.09.000002
	  ODBCドライバ: MariaDB ODBC Driver version 3.1
	  • Oracle
	  DBMS: version 18.0
	  ODBCドライバ: Oracle Instant Client ODBC version 21.8
	  • PostgreSQL
	  DBMS: version 12.0.7
	  ODBCドライバ: PostgreSQL Unicode ODBC version 13.02
	  • Snowflake
	  DBMS: version 7.3.2
	  ODBCドライバ: SnowflakeDSIIDriver version 2.24.4
	  • SQLite
	  DBMS: x64 version 3.40.1
	  ODBCドライバ: sqliteodbc_w64 version 0.9998

© 2025 NTT DATA Mathematical Systems Inc.

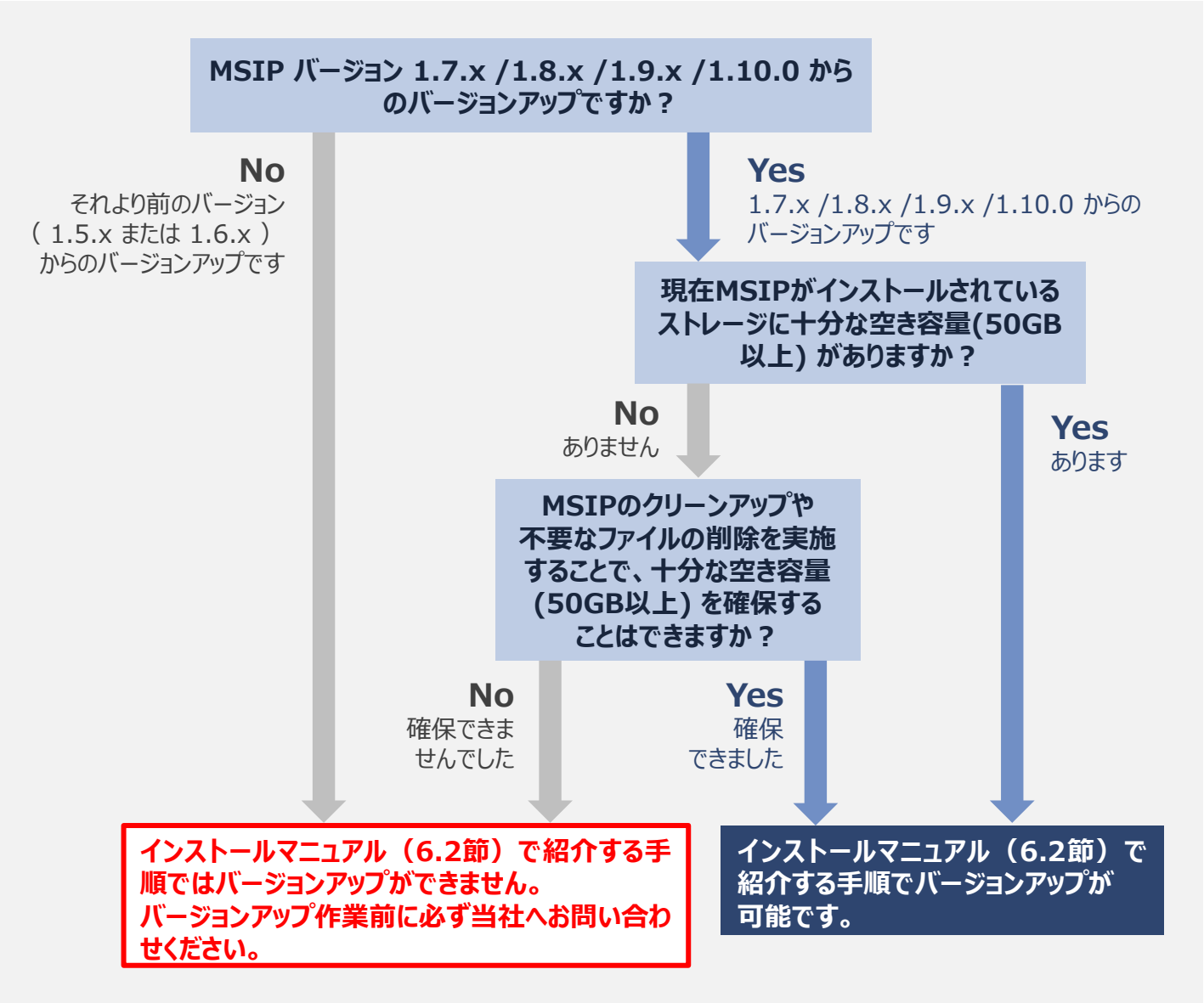
MSIP 1.10.1 へのバージョンアップ前にご確認いただきたいこと

MSIP のバージョン 1.7.x/1.8.x/1.9.x/1.10.0 からのバージョンアップであり、かつ現在 MSIP がインストールされているストレージに十分な空き容量（50 GB 以上）がある場合にのみ、インストールマニュアルで紹介する手順でバージョンアップ作業を実施していただくことが可能です。（右図参照）

※ MSIP およびその上で動く当社プロダクト（Alkano, BayoLinkS）以外の当社他プロダクトをご利用の場合は、次ページの [MSIP 1.10.1 の当社の他プロダクトとの共存につきまして] も合わせてご確認ください

それ以外の場合は、バージョンアップ作業前に必ず当社へお問い合わせください。当社サポート担当より、以下をヒアリングさせていただいたうえで、バージョンアップ手順をご案内させていただきます。

- ご利用中のバージョン
- MSIP のご利用状況
- ストレージの状況
- MSIP データ保存領域設定の状況



MSIP 1.10.1 の当社の他プロダクトとの共存につきまして

MSIP 1.10.1 は 以下の当社プロダクトと同じコンピュータにインストール（共存）させることができます。以下に掲載している以外のプロダクトにつきましては、当社までお問い合わせください。

以下のプロダクト群は、MSIP1.10.1との共存が可能です(※)

- Nuorium Optimizer 27.1.0 以降（2025年3月リリース）
- MSIP 1.10.1 およびその上で動作する以下のプロダクト
  - Alkano 1.4.1（2025年6月リリース）
  - BayoLinkS 9.3.1（2025年6月リリース）
  - TextExtension 1.2.1 （2025年6月リリース）
  - R-Extension 0.1.14（2025年3月リリース）
- S4 Simulation System 6.5 以降（2025年3月リリース）
- Text Mining Studio 7.1.5 以降（2025年3月リリース）

(※) **MSIP 1.9.2 またはそれ以前のバージョンからのアップデートインストールで MSIP 1.10.1 と他プロダクトを共存させる場合、MSIP 1.10.1 を先にインストールしてください。**
なお、MSIP 1.10.1 と共存させるプロダクトの動作環境と MSIP 1.10.1 の動作環境を**いずれも**満たすコンピュータにのみ、両プロダクトを共存させることが可能です。

MSIP 1.10.1 の依存ソフトウェア

MSIP 1.10.1 は、以下のソフトウェアを利用して動作しています。そのため、MSIP のインストール時に自動的に以下のソフトウェアもインストールされます。

- MSI Python※ 3.12.3
- Node.js v22.2.0
- Visual Studio 2015、2017、2019、および 2022 用 Microsoft Visual C++ 再頒布可能パッケージ

以下の場合は、上のソフトウェアと競合するため、MSIPをインストールできません。

- MSI Python の 3.12.3 より新しいバージョンがインストールされている場合
- Node.js の v22.2.0 より新しいバージョンがインストールされている場合

※ MSI Python とは、当社プロダクトのためカスタマイズした Python ディストリビューションであり、当社プロダクト導入時にあわせて導入されます。MSI Python 以外の Python 環境と干渉することはありません。

MSIP 1.10.1 のインストール時の環境チェックにつきまして

MSIP インストーラは、お使いの環境が MSIP の動作要件を満たしているかどうかを確認します。インストール中に以下のようなエラーメッセージが表示された場合は、対処方法にしたがった対処をお願いいたします。

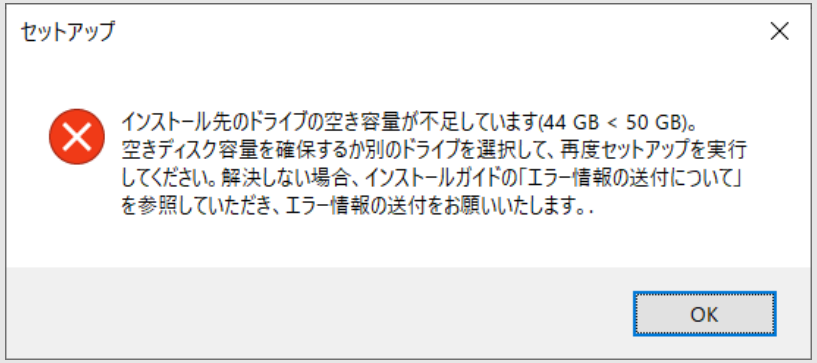
インストール時の環境チェックで表示される可能性のあるエラーメッセージとその対処方法

ストレージが不足している場合および**利用可能メモリが不足している場合**、次のような表示が出てインストールが中止されます。以下の対処を実施した後、改めてセットアップの実施をお願いいたします。

「インストール先のドライブの空き容量が不足しています」と表示される

ストレージが不足しています。例えば、右の画面は、ストレージの空き容量が 50 GB 必要であるにもかかわらず、44 GB しかないことを表します。

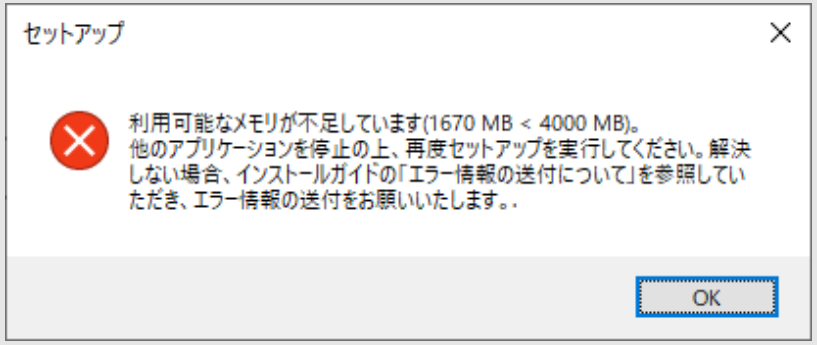
インストールを続行するには、**不要なデータやプログラムを削除してストレージの空き容量を 50 GB 分確保するか、インストール先として 50 GB 以上の空き容量のある別のドライブを指定してください。**



「利用可能なメモリが不足しています」と表示される

利用可能メモリが不足しています。例えば、右の画面は、利用可能なメモリが 4 GB（4000 MB）必要であるにもかかわらず、1.6 GB（1670 MB）しかないことを表します。

インストールを続行するには、次のページを参考に、利用可能メモリを確保してください。



MSIP 1.10.1 のインストール時の環境チェックにつきまして

利用可能メモリの確保方法

前頁の方法でメモリの利用可能量をご確認いただいた結果、利用可能量が 4 GB 未満だった場合、以下の方法にて利用可能メモリの確保をお願いいたします）。

1 起動中の他のプログラムを終了する

メモリの利用可能量は、**お使いのコンピュータ上で動作する MSIP のプログラムの状態によって動的に変化します**。メモリの利用可能量が 4 GB 未満の場合、起動中の他のプログラムをできるだけ終了してみてください。他のプログラムが利用していたメモリが解放され、利用可能メモリが増えます。特に、Webブラウザやメーラー、オンライン会議アプリケーション等は多くのメモリを消費しますので、起動中の場合は終了してみてください。

※MSIP のインストール時だけでなく、動作時にも利用可能なメモリが 4 GB以上あることが必要です。MSIP 起動時はできるだけほかのプログラムを終了させてください。

2 搭載メモリを増設したり、搭載メモリ量の大きな別のコンピュータをご用意いただく

上記 1 を実施しても、まだメモリの利用可能量が 4 GB 未満となる場合、そもそもご利用のコンピュータの搭載メモリが小さい可能性がございます。メモリの増設または、搭載メモリ量の大きな別のコンピュータのご用意をご検討ください。

※たくさんのメモリが使用できるほど、それだけ大きなデータを高速に扱うことができます。ここでご説明している「4 GB」という基準は、MSIP 上で小規模なデータを用いたデータ分析を行うためのメモリサイズです。大規模なデータを扱う予定がある場合、メモリの増設をご検討ください。

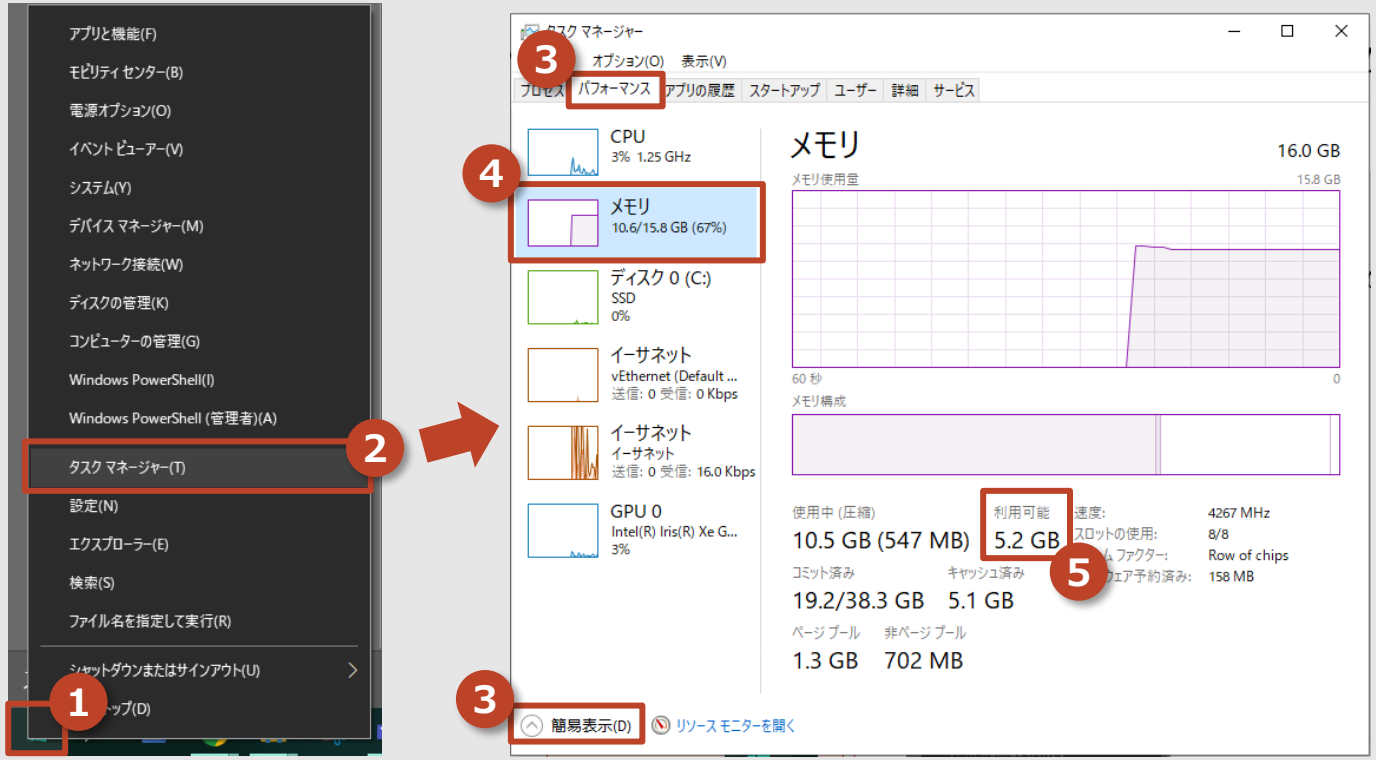
メモリの利用可能量を確認する方法を次頁でご紹介します。以上を実施後、次頁の方法で、4 GB 以上のメモリが確保されたかをご確認ください。

メモリの利用可能量の確認方法

メモリの利用可能量は、以下の方法にてご確認いただけます。MSIP のインストールを行う直前および起動する直前に、以下の方法で 4 GB 以上の利用可能メモリがあるかどうかご確認ください。

メモリの利用可能量の確認方法（画面はWindows 10 の場合）

Windows のタスクマネージャーを起動し、「パフォーマンス」タブからメモリの利用可能量を確認することができます。



1. デスクトップのスタートボタン（Windows マークのボタン）を**右クリック**します。
2. 現れたメニューの中から、「タスクマネージャー(T)」をクリックし、タスクマネージャーを起動します。
3. タスクマネージャーの画面上部に並んだタブのうち、「パフォーマンス」をクリックします。
   もし、これらのタブが表示されていない場合、タスクマネージャー画面左下に 詳細(D) と表示されていないかご確認ください。この 詳細(D) をクリックすると、画面が切り替わり、タブを表示することができます。
4. 画面左部の項目一覧のなかから、「メモリ」をクリックします。
5. 「利用可能」の項目に、メモリの利用可能量が表示されておりますので、これが 4 GB 以上あるかご確認ください。

© 2025 NTT DATA Mathematical Systems Inc.

MSIP のインストール時の環境チェックを回避して、強制的にインストールする方法 (1/2)

どうしても利用可能メモリおよびストレージの要件を満たすことができない場合、MSIP のインストール時の環境チェックを回避して、強制的に MSIP をインストールすることも可能です。

ご注意

MSIP の動作環境を満たしていないコンピュータに強制的に MSIP をインストールした場合、**一部の基本機能が正常にご利用いただけない可能性がございます**。以下のリスクを十分に理解いただいたうえで、試用目的で一時的にインストールされる場合や、ごく小規模なデータのみしか扱わないことがわかっている場合にのみ、この方法をお試しください。

MSIP の動作環境を満たしていない環境下で MSIP を実行する場合に発生し得る代表的なリスクは、次の通りです。

- 分析実行時に、エラーが発生する可能性があります。
- MSIP システム全体が正常に動作しない可能性があります。
- ストレージの空き容量が枯渇し、データのアップロードやインポート時にエラーが発生する場合があります。

特に、以下に当てはまる場合は、MSIP のメモリ消費量およびストレージ消費量が大きくなりやすいため、上記不具合が頻発する可能性があります。

- 使用頻度が多い（毎日使用されるなど）
- 分析対象データサイズが大きい（数GBサイズのデータを扱うなど）
- ワークフローシナリオに含まれるノード数が多い（分析ノードを数十個以上配置した大規模なワークフローを作成する場合など）

また、トラブル発生時に弊社サポート担当までお問合せになる際には、**「環境チェックを回避してインストールした」旨をお知らせください。**

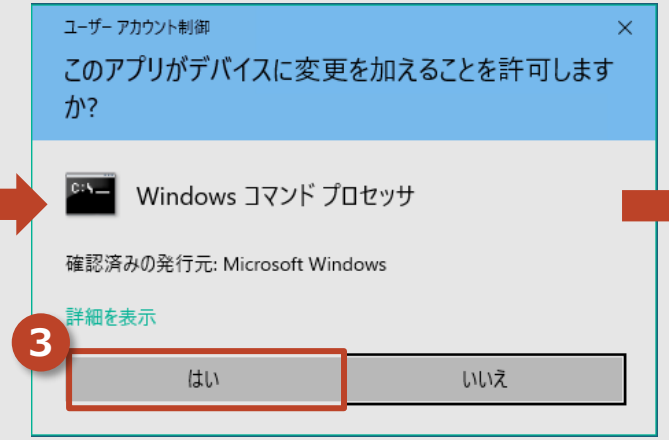
具体的な方法を、次頁に示します。上記のリスクをご理解の上、お試しいただくようお願いいたします。

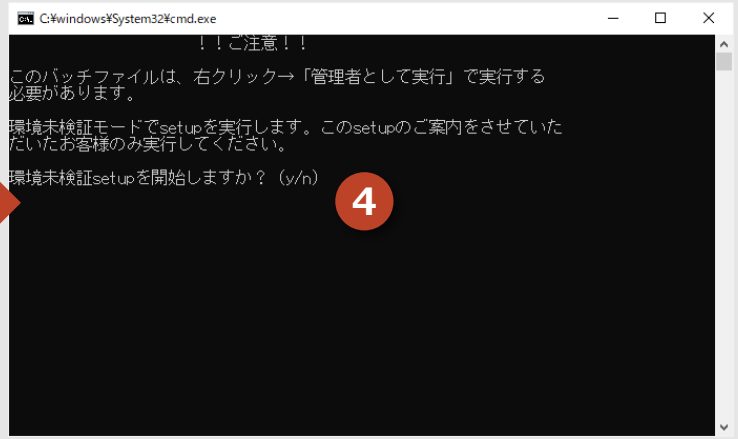
© 2025 NTT DATA Mathematical Systems Inc.

MSIP のインストール時の環境チェックを回避して、強制的にインストールする方法 (2/2)

MSIP のインストール ISO イメージ直下にある ¥utils¥util1.bat を管理者として実行することで、MSIP のインストール時の環境チェックを回避したインストーラを起動することができます。詳細は、以下をご覧ください。

環境チェックを行わないインストーラの起動方法（画面はWindows 10 の場合）





1. インストール ISO イメージを開き、直下の utils フォルダ以下にある util1.bat を右クリックします。
2. 現れたメニューの中から、[管理者として実行(A)] をクリックします。
3. 「ユーザアカウント制御」ウィンドウが表示されますので、[はい] をクリックして進みます。
4. 現れたウィンドウの指示にしたがい、キーボードの「y」キーを押下し、Enterを押します。この後、MSIP のインストーラが起動しますが、**この方法で起動したインストーラは、インストール時の環境チェックを行いません。**操作方法は、通常のインストーラと同様ですので、インストールガイドを参照の上インストールを進めてください。

© 2025 NTT DATA Mathematical Systems Inc.